梅鶯仏教壮年

第23号
2005年
6月12日

方一尺の天地
水馬（みずすまし）しきりに
円を描ける
なんじ　いずこより来たり
いずこへ旅せんとするや？
ヘイ！　忙しおましてナ！

池の中のわずか三十センチメートル四方（方一尺）の範囲、その範囲が天地の全てのごとく、みずすましがしきりに円を描いて動き回っている。おもわず声を掛けてみた。「おまえは、どこから来て　どこへ行くのか　？　何のために生まれ、生き、死んでいくのか？」と、そこでみずすましは、さも毅然として答えるのである。

「ヘイ！　忙しおましてナ！」・・・と。

この詩は、詩人村上志染の「水馬」という題の作品で、ご門主様が著書『朝には紅顔ありて』の中で引用され、「印象深い詩」と述べられているとおり、自分自身を言い当てられているようで、おもわず苦笑いします。

忙しい忙しいとかけずり回っている毎日も、仏さまから見れば、「しきりに円を描いている私」なのでしょうね。

「ヘイ！　忙しおましてナ！」が関西弁だけに、よけいにはかなさを感じます。

次回例会
7月31日

なやみは
つきねんだ
なあ
生きているん
だもの

セトモノと
セトモノと
ぶつかりっこすると
すぐこわれちゃう
どっちか
やわらければ
だいじょうぶ
やわらかいこころを
もちましょう
そういうわたしは
いつもセトモノ

相田みつを

題材法話

○正信偈を味わう①

「帰命無量寿如来　南無不可思議光」。阿弥陀さまにすべておまかせいたしますという親鸞聖人の信心の表明から始まる正信偈は、次に「法蔵菩薩物語」と呼ばれる８句が詠まれています。

私たちが今いただいているお念仏の教えは、親鸞聖人が明らかにして下さったものですが、もちろん親鸞聖人がかってにつくりあげられたものではなく、お釈迦様の教え、仏教に基づくものです。

その教えは法事などでよく勤められる仏説無量寿経というお経の中で説かれております。

したがって、仏説無量寿経は浄土真宗の根本経典でありますが、同時に、お釈迦様の最終的な目的がこのお経を説くことにあったのだと親鸞聖人は明らかにして下さっています。

その仏説無量寿経の中に、阿弥陀さまが、まだ仏様と成られる前に法蔵菩薩と名乗っておられ、その法蔵菩薩さまがどのようにして阿弥陀様と成られた

かが、詳しく説かれています。これを法蔵菩薩物語と呼び、「法蔵菩薩因位時」から「重誓名聞十方」までの８句は、そのことを親鸞聖人が喜びの詩として詠まれているのです。

それではまず、その８句をできるだけ平易な言葉で意訳してみましょう。

○法蔵菩薩物語

【阿弥陀如来さまがむかし法蔵と名のる菩薩さまであったときに、法蔵菩薩さまの先生であった在世自在王仏さまのところで仏という仏さまの教えを請われ、あらゆる仏さまがたの世界の成り立ちや、その世界の人たちの善いところ悪いところをつぶさにお聞きになって、この上なくすぐれた願い（四十八の願）をおたてになり、世にもまれなる大いなる誓い（念仏して全ての者が救われなければ、自分自身も仏と成らないという誓い）をおこされました。

法蔵菩薩因位時　在世自在王仏所観見諸仏浄土因　国土人天之善悪　建立無上殊勝願　超発希有大弘誓　五劫思惟之攝受　重

それは計り知れないほどの長い時間をかけて考えぬき、修行をして、この願いを選び取られたのです。

そしてこの願いと誓いを改めて表明し、「わたしの名前、すなわち南無阿弥陀仏の名前が、あらゆる世界の人々に聞こえさせ、全ての迷いの人々をさとりの世界に至らせる」と重ねて誓われ、仏と成られました】

意訳文を聞いても、なにかおとぎ話を聞いているようで、すぐにはなじめませんが、例えば「浦島太郎」や「桃太郎」のお話をそのまま聞いている限りでは、「人の恩」や「いのちの大切さ」といったことが聞こえてこないのと同じように「法蔵菩薩物語」もその物語が語る真実性を味わなければなりません。

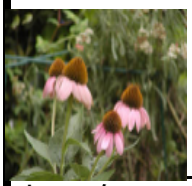
○五劫・兆載永劫の時間の長さとは？

まず、法蔵菩薩さまが、「計り知れないほどの長い時間をかけて考えぬき、修行をして」とありますが、お経ではその時間を「五劫の間」とか、「兆載永劫の間」と説かれています。

この「五劫」や「兆載永劫」というのは、インドの人々が考え出した時間の長さの単位であり、「劫」という時間は、「四十里四方の岩盤（富士山の４０倍ほどの岩）を三年に一度、天人が羽衣で一回さすり、それを繰り返して岩がすり減り無くなるまでの時間」であると経に記されております。

「五劫」ですからさらにその５倍の時間となり、気の遠くなるような時間の長さです。

つぎに「兆載永劫」ですが、一十百千万と続く数字の単位は、やはり中国で使われていたもので、億、兆のつぎに京、垓、杼、穣、溝、澗、正、載と続き、最後の無量大数という単位まで続きます。



「兆載永劫」は、その「兆」と「載」の単位を掛け合わせた数ということで、こちらのほうも、とてつもない長い時間ということになります。

要するに五劫や兆載永劫というのは、私たちの日常的な感覚を超えた無限の時間を表します。

これは一体どういうことなのでしょうか。

そこには法蔵菩薩さまの本願成就の深い真実性が込められています。

（５月例会住職法話より）　以下次号

§§§